



1/3 「今年こそは」と願いを込めて

三嶋大社の三が日の初詣で客は昨年に比べ1万人増の、63万人でした。雪化粧をした富士山がはっきりと見える晴天にも恵まれ、良い年になるよう、さい銭箱にお金を投げ入れて手を合わせる人、お守りやおみくじを買い求める人の波が途絶えることなく続きました。

12/18 文化の香り高き作品の創造に拍手

文芸三島第31号入賞者表彰式が生涯学習センターで行われ、38人の入賞者が表彰されました。今回は小説、評論、随筆、詩、短歌、俳句、川柳、はめ字文の8部門に188点もの文芸作品の応募がありました。毎年刊行される三島の文芸誌、文芸三島には豊かな心を持ち続けることの大切さや、美しさがあふれています。



1/7 目指すは「トップの試合に出ること」

ドイツ・サッカー1部リーグ「シャルケ04」に選手登録された三島市出身の松永祥兵選手が、二十歳の誕生日となるこの日、小池市長を表敬訪問しました。松永選手は、小学生の時にスポーツ少年団でサッカーを始め、その後も市や県の選抜選手として活躍。今年の抱負は「トップチームの試合に出ること」と話していました。

1/14 生産者と消費者が食で距離を縮める

みしまプラザホテルで「みしま、農と食のおいしいフェスティバル」が行われ、農業生産者や消費者など約160人が一同に会しました。これは、地産地消の推進を異業種同士の交流を通して発展させようと開催したものです。農業従事者が取り組みを発表後、三島の食材を用いた料理が出され、参加者は食の話題に花を咲かせていました。



1/7 五穀豊穰、天下泰平を願って

県の無形文化財であるお田打ち神事が、三嶋大社で行われました。これは、稲作の手順を狂言形式で演じる伝統行事で、平安時代から始まったといわれます。田を耕す場面では、牛役の細井俊汰くん（6歳）が「モー」と元気に一声あげると、見物客からは拍手が挙がっていました。



1/7 日本の良き風習を伝承

古来から七草の日に七草がゆを食べ、疲れた胃を癒し、その年の無病を願う風習があります。この風習を後世に伝えるため、泉町の塚田冷子さん宅に市民の皆さんが集まり、七草がゆを味わいました。会場ではコーラスグループ「コールロベリア」のわらべうたも披露され、七草がゆのおいしさをいっそうひきたてていました。

1/11 成人の祝いをこめて、たすきをつなぐ

三島成人式記念駅伝大会が行われ、一般、高校、中学、女子、シニアの各部門とオープン参加のチーム、計71チームが健脚を競いました。コースは、日本大学のグラウンドをスタートし、佐野小学校を折り返して市民体育館をゴールとする5区間21.2km。スタート地点では、当日成人式に出席する新成人が振袖姿で訪れ、選手に声援を送っていました。



1/11 防火、防災の決意を胸に堂々と行進

三島市消防出初め式が行われ、消防団員と消防職員など約500人が参加しました。市役所駐車場での式典では、表彰や部隊検閲、車両検閲を実施。また、大通りでは、幼年消防クラブの園児が火の用心を呼びかけたほか、徒歩分列行進や車両パレードが行われ、沿道から送られる拍手や声援を受けながら団員たちは堂々と行進しました。